Plain Living High Thinking

英米文学科同窓会 第 15 回総会 記念講演

『不思議の国のアリス』を生んだオックスフォードの自然環境と言語文化 ―2023 年秋季セミナー続編―

講 師：吉波 弘 氏（青山学院大学名誉教授、英米文学科同窓会会長）

【講師プロフィール】

・1974 年に青山学院大学文学部英米文学科を卒業し、同年秋より米国ワシントン大学大学院にて言語学を研究。
・1983 年から 2020 年まで 37 年間、同学科専任教員を務め、国際交流センター所長、英米文学科主任、英米文学専攻主任などを歴任。
・在職中、交換留学制度拡充、オックスフォード大学夏期研修プログラム開発、英米文学科英語科目改革（IE プログラム開発）などに取り組む。
・在外研究員としてマサチューセッツ工科大学、オックスフォード大学、ワシントン大学に滞在し、生成音韻論の枠組みで諸言語の韻律単位を中心に研究。
・現在、英米文学科同窓会会長、ウィルキンソン・吉波アドグル OB 会会長、Hugh E. Wilkinson Foundation 代表理事。

【講演概要】

日本でも広く親しまれている『不思議の国のアリス』は英国オックスフォード大学の数学の講師によって書かれました。著者ルイス・キャロルは所属するクライスト・チャーチ・カレッジのディーンであったヘンリー・リッデルの娘アリスとテムズ川で船遊びをしながらお伽話を語りました。この二人の関係を知るにはオックスフォードの街と大学を貫くテムズ川と周辺の自然環境を実感することが肝要です。また、同大学で伝統的に育まれたファンタジー文学を楽しむために作家たちの背景にあった言語文化を知ることも重要です。本講演では以上２点に焦点を当ててお話をします。

日 時：2024 年 6 月 8 日（土）15:10～16:20（総会終了後）
場 所：校友会 A 室（アイビーホール 2 階）
開催形式：対面(基本)＋Zoom meeting